

夏に見られる鷹取山のバッタ



トノサマバッタ

日本最大のバッタの仲間。緑色型のほか、褐色型もいる。高く飛ぶことができる。イネ科の植物の葉を好んで食べる。



クルマバッタ

トノサマバッタに似ているが、背中が少し盛り上がる。また、飛んだ時に見られる白帯があることとで見分けられる。



クルマバッタモドキ

クルマバッタによく似ているためこの名があるが、やや小型。胸部にはX字型の紋がある。



イボバッタ

灰褐色のまだら模様のバッタ。背中にはイボ状の突起がある。手でつかむと口から真っ黒な液体を吐き出す。



ツチイナゴ

体の色はツチイナゴという名のとおり、土色をしている。目の下の黒いスジが特徴的です。成虫で冬を越す



ヒナバッタ

つやのない褐色をしていて腹部の黒い縞模様が目立ち、前胸背にはっきりした「く」の字状の細線がある。



フキバッタ

林縁のやや薄暗い環境の下草や葉上でよく見られる。翅が短いので飛ぶことができないことから移動は困難。



ヒシバッタ

体の色は土色や茶色で小さいミニバッタ。体型がひし形をしているので、この名がついた。



ショウリョウバッタ

明るいひらけた草原でよく見られる。飛ぶときに、前羽と後ろ羽を打ちあわせてキチキチと音をたてて飛ぶ。



ホシササキリ

体は明るい緑色または褐色で、前翅の側面、基部寄りに小黑点列を持ったササキリの仲間。



オンブバッタ

大人が子供を背負っているのではなく、オスがメスに乗っているなのでこの名がついている。

バッタの仲間

鷹取山の草地には多くのバッタが見られる。バッタの仲間はバッタ目(直翅目)の昆虫で後脚が大きく発達していてジャンプ力がある。

幼虫は翅がないが、成虫になると多くの種類で翅が伸び、空中を飛ぶこともできる。翅の構造は細くて不透明な前翅と、大きく広がる半透明の後翅からなる。ヒシバッタやオンブバッタなど、飛ばない種類もいる。

体色は環境の違いによって緑色や褐色など個体差がある。